

# 環境活動レポート

【期間 2015年4月～2016年3月】

都生工業株式会社

2016年6月13日 作成

## 1. 当社概要

認証登録範囲は全事業所を対象とする。

### (1) 事業所名及び代表者名

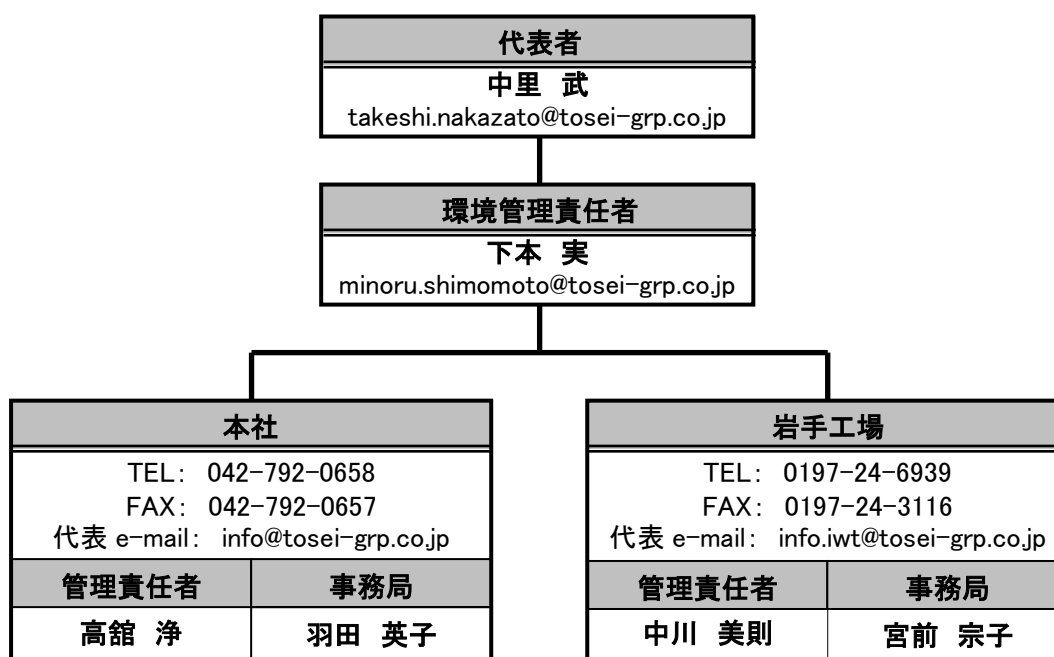
都生工業株式会社 代表取締役 中里 武

### (2) 所在地

本 社 〒194-0035 東京都町田市忠生 1 丁目 28 番地 5

岩手工場 〒023-0132 岩手県奥州市水沢区羽田町字窪 34 番地

### (3) 環境管理責任者及び担当連絡先



### (4) 事業内容

本 社 各種ダンボール製函、発砲スチロールカット、梱包資材販売

岩手工場 農機部品製造(鍛造)、溶射

### (5) 事業規模

資本金 1,000 万円

	本 社		岩手工場	
	2014 年度	2015 年度	2014 年度	2015 年度
従業員数 [人]	14	13	19	19
売上 [百万円]	147.1	138.8	237	208
床面積 [㎡]	1,067	1,067	1,106	1,106
敷地面積 [㎡]	1,928	1,928	4,834	4,834

## 2. 環境方針

当社は次の環境方針に基づき環境活動を行います。

### 基本理念

資源循環型社会を推進している都生工業株式会社では、ダンボールケース・梱包資材設計／製造・農機部品設計／製造における事業活動を通して、常に環境負荷の低減化を考えて行動します。

### 環境行動

1. エコアクション 21 環境経営システム構築に取組み、その実施運営において、環境関連法令・条例等を厳守するとともに、地域・業界・顧客の環境保全に関する要求事項に配慮し、環境活動の持続的な改善を進めていきます。
2. 環境目標及び環境取組計画として下記事項を重点項目に設定し、必要に応じてその内容を見直し、環境方針に整合した環境行動を実施します。
  - (1) 電力、燃料等の使用量を削減し、二酸化炭素排出量軽減のため、省エネルギー化を推進する。
  - (2) 適切な上水使用を実践し、総排水量の削減を推進する。
  - (3) 廃棄物を徹底的に分別し、古紙リサイクルを推進する。
  - (4) 化学物質(本社：酢酸ビニル、岩手工場：ニッケル)の使用量の把握と管理を行う。
  - (5) ダンボール箱製造工程における端材を再利用し、廃棄物量を削減する。
  - (6) 効率の良い取り都合を考慮し、材料資材を有効利用する。
  - (7) 顧客要望の製品反映することで製品価値を向上させ、環境へ有益な製品開発活動に努める。
  - (8) グリーン購入を促進する。
3. 事業を通じ、資源循環型社会構築に貢献するため、エコアクション 21 環境経営の実施状況を内外に報告する。
4. 都生工業株式会社および社外にこの環境方針を周知する。

平成 26 年 04 月 21 日

都生工業株式会社

代表取締役社長



### 3. 環境目標

#### (1) 主な環境負荷の実績

環境目標設定のため過去3年間にさかのぼり、現状の環境に対する負荷状況を本社、岩手工場に  
分けて調査した。

##### ① 本社

		2012 年度	2013 年度	2014 年度
生産量 [ t ]		250.65	225.71	218.70
CO <sub>2</sub> 排出量 [kg-CO <sub>2</sub> ] ※1		37,821	36,597	36,269
内 訳 [%]	電力	64.3	62.2	61.7
	ガソリン	12.4	12.1	13.7
	軽油	22.4	25.0	23.9
	LPガス	0.9	0.7	0.7
一般廃棄物排出量 [kg]		256	244	333
上水使用量 [m <sup>3</sup> ]		100.9	85.7	120.6

※1:消費電力に対するCO<sub>2</sub>排出量は2010年東京電力CO<sub>2</sub>排出係数0.375[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]で計算。

##### ② 岩手工場

		2012 年度	2013 年度	2014 年度
生産量 [ t ]		294.78	305.99	314.70
CO <sub>2</sub> 排出量 [kg-CO <sub>2</sub> ] ※1		471,805	492,936	462,391
内 訳 [%]	電力	17.4	16.6	17.7
	重油	63.8	64.3	64.2
	灯油	1.3	1.7	1.5
	LPガス	16.1	16.1	15.1
	ガソリン	1.2	1.1	1.3
	軽油	0.2	0.2	0.2
一般廃棄物排出量 [kg]		707	770	874
上水使用量 [m <sup>3</sup> ]		101	124	24

※1:消費電力に対するCO<sub>2</sub>排出量は2008年東北電力CO<sub>2</sub>排出係数0.378[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]で計算。

## (2) 環境目標選定とその理由

## ① 本社

## i. 基準年設定

営業担当者入れ替え、社用車追加から、ガソリン・軽油使用量削減項目に限り、基準年を 2014 年度とする。その他項目は基準年を 2011 年とする。

ii. CO<sub>2</sub>排出量

ガソリン使用車の 2014 年度実績を下表に示す。

燃費は給油時に計算したもので下表の走行距離、燃料使用量からの計算した値ではない。

2014 年度実績

	走行距離[km]	燃費[km/l]	燃料使用量[l]
営業車#1	9,079	9.96	910
営業車#2	13,001	10.76	1,212
社用車	366	-	20
ガソリン全車	22,446	10.42	2,142
2tトラック	21,530	6.55	3,296

社用車は 4 月～8 月まで本社管理、それ以降、岩手工場へ移管する。また、昨年度、給油機会が少なく燃費計算ができていないため、暫定的に 9.0[km/l]とする。

目標値の設定は走行予想距離を設定し、1%燃費向上として使用量を算出する。

但し、営業車#2 の走行予測距離は 2014 年度上期の走行距離は担当変更に伴い走行距離が大幅に増加したため、下期 6 ヶ月分で算出した。

2015 年度目標値

	走行予想距離[km]	燃費[km/l]	燃料使用量[l]
営業車#1	9,100	10.06	904
営業車#2	12,200	10.87	1,122
社用車 ※	300	9.00	33
ガソリン全車	21,600	10.49	2,059
2tトラック	21,500	6.62	3,247

※ 管理期間 4 月～8 月

LP ガス使用量に関しては生活用として使用するのみで消費比重が低いため、環境目標値を設定せず計測のみを実施する。

iii. 廃棄物排出量

古紙リサイクルに関しては常に達成率 100%であることから環境目標項目から削除するが、取組項目としては実施し、リサイクル量を測定する。

製品製造時に発生するダンボール端材を利用して他製品の製造を行い、廃棄物量の削減を図る。目標値は前年度数値を考慮し、これを上回るように暫定的に設定する。

iv. 上水使用量

生活用として使用するのみで消費比重が低いため、環境目標値を設定せず計測のみを実施する。なお、上水のみでなく地下水使用量も計測する。

v. PRPT 制度対象化学物質

セビアン-A(ダンボール接着糊)に含まれる酢酸ビニルが対象となるため、これを管理徹底し使用量を把握する。

## ② 岩手工場

## i. 基準年設定

廃棄物排出削減項目に関しては基準年を 2013 年度実績値、それ以外は基準年を 2008 年度実績値とする。

ii. CO<sub>2</sub>排出量

本項目に関しては、生産量が増加すると各エネルギー消費量も増加することから、生産量に応じた目標値設定とする。

2008 年度の実績値と各エネルギー消費量、目標値を以下に示す。

生産量 (A)	エネルギー消費量		目標値		
			削減割合	目標数値 (B)	生産量当りのエネルギー消費量 (B) / (A)
256,000 [kg]	電力 [kWh]	191,070	3%	185,337	0.723
	重油 [ℓ]	110,080	5%	104,576	0.408
	LPガス [kg]	23,575	3%	22,867	0.089

毎月の目標値は生産量当りのエネルギー消費量と生産量を乗じることで算出する。  
生産量実績値よりエネルギー消費量の目標値を算出するため各月の目標値は変動する。

## iii. 廃棄物排出量

軍手廃棄物量の計測を開始した2013年度を基準年とする。

## iv. 用水使用量

節水を励行し、上水、地下水使用量の計測を行う。

地下水についてはポンプ仕様から計算により使用量を記録する。

## v. PRPT 制度対象化学物質

ニッケルが PRPT 制度対象化学物質となるため、これを管理徹底し使用量を把握する。

## vi. 材料資材の有効利用

製品材料から効率の良い取り都合を考慮し、仕入内容を見直し記録する。

## vii. 顧客要望の製品反映

営業活動により得た顧客要望を製品に取り込むことで、製品価値(材質、形状、耐久性、操作性、取扱い方法等)を向上させ、環境への有益な製品開発活動に努める。

この指針として、顧客要望に対する対応件数を記録する。

## (3) 環境目標

## ① 本社

環境目標	基準値 ※1		目標(対基準年)		中長期目標	
			通年 2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ] (主要3項目)※2	38,838		38,035	37,958	37,958	37,958
①電力使用量削減[kWh]	67,302		<b>2%削減</b>	<b>2%削減</b>	<b>2%削減</b>	<b>2%削減</b>
			65,955	65,955	65,955	65,955
②ガソリン使用量削減・燃費向上			<b>1%燃費 向上</b>	<b>1%燃費 向上</b>	<b>1%燃費 向上</b>	<b>1%燃費 向上</b>
			全車両	2,142	2,059	2,026
上段：使用量[ℓ] 下段：燃費[km/ℓ]	営業車#1	10.42	10.49	10.51	10.51	10.51
		910	904	904	904	904
	営業車#2	9.96	10.06	10.06	10.06	10.06
		1,212	1,122	1,122	1,122	1,122
	社用車	10.76	10.87	10.87	10.87	10.87
		20	33	-	-	-
③軽油使用量削減・燃費向上 上段：使用量[ℓ] 下段：燃費[km/ℓ]			<b>1%燃費 向上</b>	<b>1%燃費 向上</b>	<b>1%燃費 向上</b>	<b>1%燃費 向上</b>
			3,296	3,247	3,247	3,247
			6.55	6.62	6.62	6.62
2. 廃棄物排出量削減	293		<b>1%削減</b>	<b>2%削減</b>	<b>2%削減</b>	<b>2%削減</b>
①一般廃棄物量削減[kg]			290	287	287	287
②端材ダンボール商品化による 廃棄物削減[kg]	210		300	300	300	300
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	上 水	201	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける
	地下水	138				
4. 化学物質管理・使用量の把握	管理徹底 含有量 480[g]		管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進[品/月]	1.4		5品購入	5品購入	5品購入	5品購入

※1: ガソリン・軽油使用量の基準年は 2013 年度、それ以外は 2011 年度とする。

※2: 消費電力に対する CO<sub>2</sub> 排出量は 2010 年東京電力 CO<sub>2</sub> 排出係数 0.375[kg-CO<sub>2</sub>/kWh] で計算。



## ② 岩手工場

環境目標	基準値 ※1	目標(対基準年)		中長期目標	
		通年 2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
生産量[kg]	256,000	278,346	(256,000)	(256,000)	(256,000)
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ] (主要3項目)※2	441,272	458,154	(410,257)	(410,257)	(410,257)
①電力使用量削減[kWh] ※3	191,070	<b>3%削減</b> 201,244	<b>5%削減</b> (181,516)	<b>5%削減</b> (181,516)	<b>5%削減</b> (181,516)
	係数[kWh/kg] 目標値/生産量	0.723	0.709	0.709	0.709
②重油使用量削減[ℓ] ※3	110,080	<b>5%削減</b> 113,565	<b>8%削減</b> (101,273)	<b>8%削減</b> (101,273)	<b>8%削減</b> (101,273)
	係数[ℓ/kg] 目標値/生産量	0.408	0.395	0.395	0.395
③LPガス使用量削減[kWh] ※3	23,575	<b>3%削減</b> 24,772	<b>5%削減</b> (22,396)	<b>5%削減</b> (22,396)	<b>5%削減</b> (22,396)
	係数[kg/kg] 目標値/生産量	0.089	0.087	0.087	0.087
2. 廃棄物排出量削減 一般廃棄物量削減[kg]	770	<b>5%削減</b> 731	<b>8%削減</b> 708	<b>8%削減</b> 708	<b>8%削減</b> 708
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	138	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける	節水を 心がける
4. 化学物質管理・使用量の把握	実績なし	管理徹底	管理徹底	管理徹底	管理徹底
5. グリーン購入の促進[品/月]	実績なし	5品購入	5品購入	5品購入	5品購入
6. 材料資材の有効利用	実績なし	見直し時 に記録	見直し時 に記録	見直し時 に記録	見直し時 に記録
7. 顧客要望の製品反映	実績なし	対応時に 記録	対応時に 記録	対応時に 記録	対応時に 記録

※1: 廃棄物排出量削減の基準年は 2013 年度、それ以外は 2008 年度とする。

※2: 消費電力に対する CO<sub>2</sub> 排出量は 2008 年東北電力 CO<sub>2</sub> 排出係数 0.378[kg-CO<sub>2</sub>/kWh] で計算。

※3: 該当年度の生産量により目標値は変動する。目標値=生産量×各係数

( ) 内数値は基準年生産量 256[t] で算出。

## 4. 環境活動計画と実績

## (1) 環境活動取組項目

当社は環境活動における環境への負荷を軽減するため以下の取組を実施し、その達成状況、活動実施状況を毎月エコアクション会議で報告すると共に、確認と見直しを実施しています。

項 目	適 用	
	本社	岩手
(1) CO <sub>2</sub> 排出量削減		
①休憩時間における工場内設備の電源OFF	○	○
②不要照明、電気製品の電源OFF（社内に節電掲示）	○	○
③作業終了時の電源OFF、消灯確認	○	○
④不要天井蛍光灯の排除	○	—
⑤エアコン温度管理の徹底の実施	○	○
⑥商品配送・収集計画の効率化	○	—
⑦車両点検整備の実施	○	○
⑧エコドライブの実施	○	○
⑨重油使用量を毎日計測し、製造商品と使用量を把握	—	○
⑩効率の良い製造計画	—	○
(2) 廃棄物排出量削減		
①廃棄物分別の徹底	○	○
②廃棄物量計測の実施し、廃棄物量を把握	○	○
③両面印刷・縮小印刷・裏紙使用の実施	○	○
④古紙・ダンボール屑・鉄屑のリサイクル徹底	○	○
⑤ダンボール端材を再利用し、廃棄物量を削減	○	—
(3) 水道使用量削減		
①社内節水掲示により手洗い時の節水を徹底（社内に節水掲示）	○	○
②冷却水の節水を徹底	—	○
(4) 特定化学物質の管理徹底と使用量の把握		
①酢酸ビニル	○	—
②ニッケル	—	○
(5) グリーン購入促進		
①エコマーク・グリーンマーク商品購入の拡大	○	○
②コピー用紙（エコマーク商品）は白色度を下げたものを購入	○	○
(6) 材料資材の有効利用		
①製品材料から取り都合を考慮し、仕入内容を見直した記録	—	○
(7) 顧客要望の製品反映		
①顧客要望に対する対応件数の記録	—	○

## (2) 環境活動実績

## ① 本社

環境目標		目標値	実績値	評価	
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ] ※1		38,035	35,503	○	
電力使用量削減[kWh]		65,955	60,237	○	
ガソリン使用量削減・燃費向上 上段：使用量[ℓ] 下段：燃費[km/ℓ]	全車両	2,059	1,814	○	
		10.49	11.49		
	営業車#1	904	686	○	
		10.06	10.86		
	営業車#2	1,122	1,105	○	
		10.87	11.88		
社用車	33	51	○※2		
	9.00	11.54			
軽油使用量削減・燃費向上 上段：使用量[ℓ]、下段：燃費[km/ℓ]		3,247	3,316	×	
		6.62	6.40		
2. 廃棄物排出量削減					
一般廃棄物量削減[kg]		290	267	○	
端材ダンボール商品化による廃棄物削減[kg]		300	186	○※3	
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]		節水	実施		○
			地下水	116.8	
			上水	94.3	
4. 化学物質管理・使用量の把握[g]		使用量把握 管理徹底	実施 酢酸ビニル 含有量 360g		○
5. グリーン購入の促進[品/月]		エコマーク商品 5品購入	実施 購入月平均3.4品		○※3

※1：消費電力に対するCO<sub>2</sub>排出量は基準年2011年度係数0.375[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]で計算。

※2：使用量としては未達成であるが、燃費を評価対象とし達成とする。

※3：目標値との数値比較ではなく、活動内容により評価している。

「5. 環境活動の取組結果の評価と今後の対応」参照。

## ② 岩手工場

環境目標	目標値	実績値	評価	
1. CO <sub>2</sub> 排出量削減[kg-CO <sub>2</sub> ] ※1	458,154	421,292	○	
電力使用量削減[kWh]	201,244	217,646	×	
重油使用量削減[ℓ]	113,565	97,480	○	
LPガス使用量削減[kg]	24,772	24,946	×	
<b>2. 廃棄物排出量削減</b>				
一般廃棄物量削減[kg]	731	1,120	×	
3. 水道使用量削減[m <sup>3</sup> ]	節水	実施		○
		地下水※2	2,091	
		上水	25	
4. 化学物質管理・使用量の把握[kg]	使用量把握 管理徹底	実施 ニッケル使用量 1,501		○
5. グリーン購入の促進[品/月]	エコマーク商品 5品購入	実施 購入月平均5.2品		○
6. 材料資材の有効活用	事象発生時	考察	1件	○
		実施	1件	
7. 顧客要望の製品反映	事象発生時	要望	1件	○
		実施	1件	

※1：消費電力に対するCO<sub>2</sub>排出量は基準年2008年度係数0.378[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]で計算。

※2：ポンプ仕様最大汲み上げ量19.6[ℓ/min]より算出

## 5. 環境活動の取組結果の評価と今後の対応

### (1) 本社

#### ① CO<sub>2</sub>排出量削減

目標値は達成できた。

電力使用量に関して前年度と比較すると 0.95%増加しているが、3月 は前年同月と比較すると 34.52%と大幅に減少している。コンプレッサーを小型化した影響であることが考察でき、今度の電力使用量に注目したい。

ガソリン使用量に関して、使用量、燃費ともに達成できている。営業車#1 担当営業が 2 月退職し約 2 カ月間稼働していなかったため、使用量が減少した。

軽油使用量に関して、特に第 4 四半期の結果が悪かったため、目標値達成できなかった。結果の原因追及とともに今一度、エコドライブへの取り組みを周知徹底する。

#### ② 廃棄物排出量の削減

ゴミ分別を細分化するなど心がけにより、排出量削減が達成できた。

端材再利用による廃棄物量削減の項目は実績としては未達成ではあるが、目標値は前年度から暫定値であり、本項目は実施されることに意義があり達成と考えて良い。

個人レベルで目標達成意識を高めるため、今後も目標値を設定する。

#### ③ 水道使用量の削減

目標値はないが今後も節水を心掛けるよう各自周知徹底する。

#### ④ 化学物質管理・使用量の把握

購入量の把握、管理共にできている。今後も管理徹底する。

#### ⑤ グリーン購入の促進

目標数値には達していないが、優先してエコマーク商品を購入するように心がける。

## (2) 岩手工場

① CO<sub>2</sub> 排出量削減

2014 年度との比較を下表に示す。

年度	生産量[t]	項目	使用量	CO <sub>2</sub> 排出量 [kg-CO <sub>2</sub> ]	評価	合計CO <sub>2</sub> 排出量 [kg-CO <sub>2</sub> ]
2014	314.70	電力[kWh]	216,768	81,938	-	448,691
		重油[l]	109,520	296,759	-	
		LPガス[kg]	23,316	69,994	-	
2015	278.35 <b>11.6%減少</b>	電力[kWh]	217,648	82,271	×	421,292 <b>6.1%減少</b>
		重油[l]	97,480	264,135	○	
		LPガス[kg]	24,946	74,887	×	

使用量として達成できたのは重油使用量のみであったが、CO<sub>2</sub> 排出量としては達成できている。(消費電力に対するCO<sub>2</sub> 排出量は基準年 2008 年度係数 0.378[kg-CO<sub>2</sub>/kWh]で計算)

新規に無酸化雰囲気炉を増設したことによりキュービクルを増設し、2014 年 8 月より契約設備電力を 180kW から 320kW に変更した。また電力使用量監視システムを追加し一定量(157kw)以上の電力を継続して使用しないよう監視している。

今年度、無酸化雰囲気炉は製品耐久性の研究開発用として使用しており、現在、製造ラインには使用していない。生産量が減少しているが、電力、LPガス使用量が増加したのは、このためである。それに対し重油使用量が減少しているのは、生産量に比例していると考えられる。また、生産量 11.6%減少に対し、CO<sub>2</sub> 排出量の減少割合が少ない要因も、研究開発により燃料を使用している結果と考えられる。しかし、無酸化雰囲気炉を製造ラインに導入することで、溶射品製造時の再加熱工程を省くことができ、エネルギー使用量の削減が期待できる。

## ② 廃棄物排出量の削減

軍手廃棄量は昨年度の 384[kg]から 367[kg]に減少できた。問題意識をもつことで削減につながったと思う。一般廃棄物量が増加した要因は新規炉の増設準備により、工場内の整理、構成変更した結果である。容認できる結果であるため、目標値未達成であったが特に問題視しない。

## ③ 水道使用量の削減

地下水使用量はポンプ仕様の最大汲み上げ量 19.6[l/min]より稼働時間で算出している。

計算値は最大量であり、実質使用量はこの値より少ないと考えられる。

地下水は冷却水として使用しており、上水を冷却水として使用することがなかった。

## ④ 化学物質管理・使用量の把握

購入量の把握、保管箱を製作し管理している。今後も管理徹底する。

## ⑤ グリーン購入の促進

目標数値には達していないが、優先してエコマーク商品を購入するように心がける。

⑥ 材料資材の有効活用

材料の切断寸法と仕入材料寸法を見直すことで、取り都合が改善され、歩留まり率が向上した。  
今後は材料切断時にサイズの異なる別商品と組み合わせることで、更に取り都合を改善し、歩留まり率向上を試みる。

⑦ 顧客要望の製品反映

肉盛り・溶射等を提案していた顧客より、爪に SUP 肉盛り施工したい要望を受けた。  
サンプル品を製作し 2014 年 4 月に納品する。  
好評につき 2015 年 2 月に再受注し、同年 3 月に納品した。

(3) 次年度の取組内容

取組項目は今年度と同項目に取り組むこととする。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

弊社の遵守すべき環境関連法規、条例を確認した結果、違反のないことを自主的に確認した。  
なお、これら法規制に関する関係当局からの違反の指摘、及び関連する訴訟は過去 3 年間ありません。

## 7. 代表者による全体の評価と見直しの結果

### 【開催日】

2016 年 4 月 16 日

### 【出席者】

代表取締役、環境管理責任者、本社社員

### 【開催場所】

本社 3 階

### 【議事内容】

#### (1) 本社

二酸化炭素排出量削減は達成できた。各項目について着目すると軽油使用量のみ目標達成できなかった。特に第4四半期の燃費が悪い。エコドライブに対する取り組み方を考察し、問題点を追及する必要がある。新規営業担当が加わった点もあり、今一度、エコドライブに関して周知徹底する。また、社内コミュニケーションを綿密にし、同一方向の営業活動と配送を集約化し、目標達成に近づける。

コンプレッサーを変更してから、電力使用量大幅に削減されている。今後の使用量に注目する。端材利用は手間を掛けても再利用を試みる気持ちが必要。また、数字で目標値を表すことで個人の意識レベルを上げる。

#### (2) 岩手工場

二酸化炭素排出量削減は達成できた。各項目について着目すると電力、LPガス使用量削減は達成できなかった。製品耐久性の研究開発用として無酸化雰囲気炉を導入したことにより電力、LPガス使用量が増加している。これに対し、製品生産量は減少に伴い、重油使用量も減少し、結果的に二酸化炭素排出量削減につながった。

集中生産方式を確立することで使用量削減の目標達成は可能であると考え。但し、現状の営業活動、製造方式で工場運営をした場合、受注方式から検討しないと確立できない。また、客先納期を優先すれば大量に在庫を抱える結果となるため、思案が必要となる。

#### (3) 全社

本社・岩手工場ともに環境マネジメントシステムの見直しは不要。今後も目標値を設定する。目標を達成させるには全社員の参加が不可欠。可能な限り担当の細分化を図り、ポジション毎に月単位で目標値と実績値の差異を考察し、発表することで関心を持続させる。